

会 議 録

会議の名称	第2回鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会	
開催日	平成28年4月24日(日)	
開催時間	午前10時 開会・午前12時 閉会	
開催場所	鴻巣市役所 第二庁舎 2階 会議室	
議長(委員長・会長)氏名	会 長 矢 部 保 雄	
出席者(委員)氏名(出席者数)	矢部保雄(会長) 千葉一安(副会長) 秋葉寿美子 水野雅雄 新井聡恵 奥木美恵子 菅間幸子 島村伸之 伊藤幸久 中田周誠 大原敏昭 武井浩之 森田博子 佐藤芳隆 松谷裕美 (15名)	
欠席者(委員)氏名(欠席者数)	欠席者 なし	
事務局職員職氏名	教育総務部長 教育総務部副部長兼教育総務課長 教育総務課副参事 教育総務課主幹 学校教育部長 学校教育部副部長兼学務課長 学務課主任	田 中 潔 村 田 弘 一 川 鳶 利 徳 鳥 沢 保 行 牧 田 卓 司 服 部 幸 司 新 井 哲 弘 (7名)
傍聴の可否(傍聴者数)	可(8名)	
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 通学区域の見直しについて ・宮地一丁目の通学区域の見直し (2) 小中一貫教育の推進について ・川里地域(屈巢小、共和小、広田小) (3) 小学校の適正配置について ① 鴻巣地域(笠原小、常光小、鴻巣中央小) ② 吹上地域(吹上小、小谷小、大芦小) (4) 今後の進め方について 4 閉会	

(1) 通学区域の見直しについて

◆ 宮地一丁目の通学区域の見直し
(審議委員の主な意見)

- ・ 鴻巣東小の方が安全である。現状を優先しながら、ある一定の期間を設け、鴻巣北小から鴻巣東小へ変更した方が良い。
- ・ 鴻巣東小の方が近いが、安全だけではなく、地域のつながりも大切である。友人・兄弟など家庭の事情に合わせて検討すべきである。
- ・ 冬場は通学路が暗くて心配だと鴻巣北小の PTA の方が言っていた。
- ・ 安全面を考えれば鴻巣東小である。鴻巣北小だと帰りが一人になり、一緒に帰ってくる同級生がいないので見守りも必要になる。現在は、弾力化の適用により自治会は同じだが、子ども会が別になることもあるが、通学区の変更には当たっては何年か時間を置くべきである。
- ・ 宮地一丁目の通学区域の見直しについては、通学区域審議会で諮る必要がある。当審議会で中間答申の内容を精査し、教育委員会へ中間答申をしたい。

◆ JR 高崎線西側地区の見直し
(事務局説明)

- ・ 栄町が鴻巣南小、鴻巣北小、田間宮小の 3 小学校に分かれて通学している現状がある。栄町の調査を行った上で、審議会で今後の進め方を検討する。

(2) 小中一貫教育の推進について

◆ 川里地域(屈巢小、共和小、広田小)
(審議委員の主な意見)

- ・ メリット・デメリットは一概にそうとは言えない。小規模校は決して悪くはない。年配者は学校が無くなるのは困ると言っているが、子どもの数が多い方が良いのか、少ない方が良いのか分からない。学校が無くなると、「おやじの会」も無くなる。保育園は統合したが、地域とのつながりはどうなったのか。他の地域の調査をお願いしたい。現在、中一ギャップや学力向上に関して結果が出ている。今後どういう方向性にしていったら良いのか解らない。
- ・ 小中一貫教育がどういうものなのか把握していないので、子どもや保護者はどう思っているのか。それぞれの学校に歴史がある。鼓笛隊が残っているのが、2校だけだがこれは残したい。目の行き届く教育、ざわざわしていない環境の中で勉強できるということは良いことだと思う。
- ・ 小 6 と中 3 をつなげるということは、学力と人間関係の上では大きな意味がある。今後どう進めていくかは教育の根幹に関わることではあるが、小中一貫は価値がある。現在実践している小中一貫教育は部分的であり、一つの行事のようなものである。大勢の子どもたちの中で認められるということは、少人数に認められるより大きなことで、本人の自信につながり、本質的には良いことである。理想としては、長い期間を系統立てて教えられるところが良い。

- ・ 9年間となると6年生という年代が宙ぶらりんになる。また、先生方の配置も問題である。他校のケースを参考とすべきである。
- ・ 一般のPTAの人たちは、3校を統合するという情報は知っているのか。そうでないなら、まず情報を伝えるべきである。

(3) 小学校の適正配置について

- ◆ 鴻巣地域（笠原小、常光小、鴻巣中央小）
- ◆ 吹上地域（吹上小、小谷小、大芦小）

（審議委員の主な意見）

- ・ 数字だけで見ていくと適正規模・適正配置という判断になるが、それ以外のことがある。想いであつたり歴史であつたり、そうなる何に重点を置くのか、このままではまとまらないと思う。子どもたちが5人になっても良いのではないか。
- ・ 気持ちは分かるが、今後それで良いのか。これが正しいと決め付けるのではなく、遠い先を考えてどうしたら良いのか話し合う場を設けていくべきである。私情を捨てて考えて欲しい。それを踏まえた討論をすべきである。
- ・ 10年後どうなるのか。小規模でも良いが、地域として何かしなければならぬという話し合いができれば良い。
- ・ 行政の都合だけでなく、第一は子どもたちのためではなくてはならない。まだ先が見えないので、慎重に審議していく必要がある。
- ・ 4月当初は新しい友だち、新しい先生との出会いである。人数が減ることには危機感がある。子どもたちの自立を手伝うという意味では、ある程度の人数がいた方が良い。
- ・ 笠原小から鴻巣北中へ進学するため、人数の多いところへ少人数で入っていくことには不安があったが、実際にはそうでもなかった。一般論として、小規模校から中学校に上がったときに集団に溶け込みにくいというのは本当なのか。実態をもとに話し合いをしていきたい。
- ・ 中一ギャップ解消に関しては、先生方が努力している。大芦小でも小谷小と一緒に行動したりするなど、先生方が集団教育活動を実践してくれている。
- ・ 笠原小から鴻巣北中へ進学した際、不登校はいない。むしろ自分から意識して集団へ入っていこうとしている。
- ・ 学校を残すとして、それは財政的に可能なのか。建物の維持や先生の質なども含めてどうなのか。

(4) 今後の進め方について

（審議委員の主な意見）

- ・ 少子化により子どもも変わっているが、大人も変わっている。メリット・デメリットを挙げてもきりが無い。今、大人は何をすべきか、そういうことを考えていく必要がある。
- ・ 吹上小は、吹上中と吹上北中に分かれる。下忍小からの子どもたちが多数なので、吹上北中に進学した吹上小の子どもたちは最初小さくなっているが、3年間の間でたくましく成長している。あまり心配しなくても良い。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">会議の内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団に溶け込みにくいかどうかは個人の問題。審議会の目的は、何が適正なのか、何が子どもたちにとって良いのかを論議することであり、お金がどうだとか先生がこうだとかではない。何クラスあれば良いかということになれば、クラス替えは必要だと思う。多ければ多いほどいろいろな子どもに会える。運動会における団結力などは将来に役立つはずなので、最低2クラスはほしい。笠原小をなくすというより中央小をなくして、それぞれに分かれるという考えもあっても良いのではないか。 ・ クラス替えがないと、いじめにあった場合の逃げ道がない。いじめは乗り越えるべきだと言うのは心無い大人の考えである。 ・ 宮地一丁目の下校の話が出たが、子どもは順応性がある。環境を整えすぎると考えることをしなくなる。笠原地域は地域のコミュニティがしっかりしているが、少人数の中だけで育った経験が大きくなったらどうだろうか。 ・ 1クラスであろうと2クラスであろうと、子どもたちは適応してやっている。
<p>配布資料</p>	<p>1.平成27年度鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会報告</p>